

令和5年3月13日

発言者	発言要旨
木村委員	<p>さくらんぼ栽培 150 周年のPRに向けて、大阪・関西万博への出展等に向けたスケジュールはどうか。</p>
農政企画課長	<p>先日、万博協会の自治体向けの説明会があり、自治体の参加形態として3つ示されたところである。1つ目は、テーマウィークへの参加として、地球規模の課題解決に向けて自治体や産業界等が集まり議論をするもの、2つ目は、自治体参加催事として、「その一歩が、未来を動かす。万博参加者全員に未来に、命をつなぐ一歩のきっかけを作る」というコンセプトに沿った形で地域のPRを行うもの、3つ目は、バーチャル催事への参加として、スマートフォン等でアクセス可能なバーチャル会場に出展するものである。実施期間の制限や参加形態による課題もあるが、万博への参加に向けて前向きに検討していきたい。</p> <p>スケジュールとしては、令和5年3月末までに参加意向の表明が必要であり、6月に企画書案の提出、その後事務局の審査を経て、6年1月に参加が正式決定するものである。関係部局と相談しながら、どのような形で参加できるか検討していきたい。</p>
木村委員	<p>関係部局と連携しながら、ぜひとも採択されるよう努めてもらいたい。</p>
木村委員	<p>「やまがた地鶏」の現況と知名度向上に向けた来年度の取組みはどうか。</p>
畜産ブランド推進主幹	<p>令和4年度の飼育状況としては、県内の生産者は11戸、農林大学校と県立置賜農業高校において、約6,000羽が飼育されている。飼育のピークは平成27年度の29戸で約16,000羽であった。</p> <p>知名度向上に向けた取組みとして、4年度は、プロバスケットボールチーム山形ワイヴァンズへの地鶏肉の提供及び山形調理師専門学校に食材として地鶏肉を提供し調理実習に活用してもらった取組みにより「やまがた地鶏」のおいしさを知ってもらったPR活動を実施した。来年度も引き続き実施するとともに、各種イベントや商談会にも参加しながら、知名度向上及び販路拡大に向けた取組みを実施していきたい。</p> <p>また、生産振興の面では、「やまがた地鶏」の生産に興味を持っている新規参入者に向けて、実際に飼育管理を行っている生産者との意見交換を実施し、担い手確保に向けて取り組んでいきたい。</p>
木村委員	<p>元気な農業人材確保プロジェクト事業費の概要はどうか。</p>
農業経営・所得向上推進課長	<p>大きく2つの事業で構成しており、1つが農作業受委託モデルの構築、もう1つが農業の経営継承支援である。</p> <p>農作業受委託モデル事業については、今年度、JT Bと全農が連携し、九州から新たな労働力を確保してくる取組みを実施したが、移動費や滞在費については国庫事業を活用していたこともあり、自走化に向けた課題があったことから、来年度からは、自走化に向けて、企業をターゲットにした社員研修、或いは社員の副業として農作業に従事してもらうようなアグリワーケーション、大学や企業のスポ</p>

発 言 者	発 言 要 旨
	<p>一ツチームの夏合宿を活用して早朝の農作業に従事してもらうアグリキャンプ、また、農作業をセットにした旅行商品であるアグリツアーの開発など、滞在費等を負担しないで、自走できるような取組みを検討しているところである。</p>
木村委員	<p>来年度も J T B や全農との連携を考えているのか。</p>
農業経営・所得向上推進課長	<p>これまでのノウハウがあるため、予算可決後、J T B、全農及び県で三者協定を結び、具体的な取組みを進めていきたいと考えている。</p>
木村委員	<p>来年度の目標及び本事業により期待される効果はどうか。</p>
農業経営・所得向上推進課長	<p>令和4年度の事業実績として作業受委託の延べ人数が2,141人であった。令和8年には延べ1万人を目指し、5年度は延べ3,000人を目標としたい。 この事業を通じて、観光誘客への効果が最も大きいと思うが、農業分野を中心とした関係人口の拡大、本県経済への波及効果、県内企業との交流によるビジネスチャンスの創出、また、単なる農業人材だけではなく、「山形のファン」づくりにもつながるよう、関係部局と連携しながら取組みを進めていきたい。</p>
坂本委員	<p>ねぎの販売価格については、全国の作付け状況等の影響を受け、価格が安定していない。価格の安定化に向けて、全国の動向等の情報収集を図る必要があると考えるがどうか。また、県が主体となって園芸指導を行う必要もあると考えるがどうか。</p>
園芸大国推進課長	<p>県東京事務所が大田市場において、価格動向や他産地の情報等を毎週、調査している。その結果については、県や農協等で情報共有している。 また、安定した価格での取引のためには、産地の生産基盤の維持・強化が重要であることから、普及課、研究機関等と引き続き連携しながら、対応していきたい。</p>
坂本委員	<p>本県における収入保険の法人の加入状況及び加入率はどうか。</p>
団体検査指導室長	<p>令和5年の収入保険の加入件数は3,035経営体であり、個人が2,803経営体、法人が232経営体である。 法人の加入率としては、青色申告をしている法人では33.2%、経営体全体で見ると10.75%である。</p>
坂本委員	<p>加入促進に向けた県の考えはどうか。</p>
団体検査指導室長	<p>収入保険の有用性について、地道にアピールしていくことが必要と考えており、青色申告に関する研修会等の機会を捉え、丁寧に実施していきたい。</p>
坂本委員	<p>やまがたの和牛増頭戦略事業による成果はどうか。</p>
畜産振興課長	<p>平成19年度に和牛繁殖雌牛の増頭に向けた協議会を立ち上げた。協議会立ち上げ前の18年2月1日時点の繁殖雌牛頭数は4,560頭であったのに対し、令和4年2月1日時点では7,940頭となり、約1.7倍に増頭している。ここ10年間の増加</p>

発 言 者	発 言 要 旨
坂本委員	<p>数は全国3位であり、着実に繁殖雌牛が増えている。また、昨年10月に鹿児島県で開催された第12回全国和牛能力共進会においても、繁殖雌牛の部で、出品した7頭全てが優秀賞等を受賞したことも、本事業における一つの成果と考えている。</p> <p>和牛繁殖雌牛の増頭に向けた支援はどうか。</p>
畜産振興課長	<p>国による支援があるが、国の補助事業の要件に該当しない部分に対して、県による支援を行い、幅広い支援を実施している。</p>
梶原副委員長	<p>寒河江市にてふるさと納税の返礼品に関する事案が発生したが、このことが本県農産物に与える影響をどのように考えているのか。</p>
園芸大国推進課長	<p>品質が低下したさくらんぼが流通すれば、消費者の信頼を損ね、本県さくらんぼのイメージの低下に繋がるものと認識している。この案件は、生産者が出荷日を遵守せずに出荷したことが一番の原因と考えており、誠に残念に思っている。</p> <p>県としては、平成24年度からサクランボの厳選出荷に向けた取組みとして、毎年、ポスターやチラシの配布、出荷キャラバン等を実施しており、様々な機会を捉え、生産者の方々に厳選出荷の周知徹底を図っていきたい。</p>
梶原副委員長	<p>さくらんぼを核とする県産フルーツの情報発信実行計画案（以下「実行計画」という。）について、フルーツ以外にも魅力的な農産物がある中で、なぜフルーツなのか。また、情報発信に向けて新たな施設を整備する必要性について納得しかねる。</p> <p>本計画にあるフルーツ・ツーリズムの推進に向けた具体的な考え方はどうか。</p>
農政企画課長	<p>本県の農業において果樹が占める位置付けは非常に高いが、産地では担い手の減少、凍霜害といった自然災害の発生など厳しい状況下であり、このような中で、本県の果樹の消費を拡大していくためには、情報発信を進めていくことが必要であるとの考えのもと、実行計画を策定している。その中でフルーツ・ツーリズムについては、今までどおり本県のフルーツを県外にPRするだけではなく、実際に本県に来てもらい、さくらんぼをはじめとする様々な本県のフルーツを楽しんでもらい、本県や県産フルーツのファンになってもらうことを目指し進めていくものである。</p> <p>情報発信に向けて、本県のフルーツ、そして農業全般を知ってもらい、楽しんでもらい、ファンになってもらうことを目的とした場として「フルーツ・ステーション」というものを提案しており、この「フルーツ・ステーション」が県内の各産地に創出されることにより、県外から来た方が、県内の各産地を巡り、その産地のフルーツに親しみ、お土産として買って帰り、帰ってから口コミで情報が発信されるといったことを狙いの一つとして考えている。</p>
梶原副委員長	<p>寒河江市には先導的な「フルーツ・ステーション」と目的が類似している施設であるチェリーランドがあるが、この施設との差別化が非常に分かりづらい。実行計画の策定に当たっては、生産者や市町村等から意見を聞いた上で策定すべきであるが、その状況はどうか。また、今後の進め方についてどのように考えているのか。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
農政企画課長	<p>実行計画の策定に当たっては、生産者の方々はもちろん様々な方から意見を聞いた。生産者の方からは、消費者の方と直接出会う場がないという意見、県外からのお客さんは、スイーツという形でフルーツを楽しむニーズが非常に高いなどの意見があった。このようなニーズを満たすことができる場所が県内の色々なところにあるのがいいのではないかとこの発想から実行計画を構想したものである。生産者の方からもこの考え方を理解いただき、ぜひとも参画していきたいとの声ももらっている。また、市町村に対しても担当者ベースでは話をしており、いくつかの市町村には個別にヒアリングを行い、市が所有する公共施設を活用するなどして、ぜひ取り組んでみたいとの声がある。</p> <p>今後、来年度予算が認められた際には、全ての市町村と、実際に各地域でどのような取組みができるかということをしつかりと検討する場を設けて進めていきたいと考えている。</p>
梶原副委員長	<p>各地域にはフルーツに限らず魅力的な農産物があることから、フルーツに限らず柔軟に対応してもらいたい。</p> <p>県が行う先導的な「フルーツ・ステーション」の整備は寒河江市のみで行うのか。また、令和5年度は調査検討に係る予算のみという理解でよろしいか。</p>
農政企画課長	<p>整備に当たっては、県が率先して、官民連携の新しい手法に取り組むことから、県有地である最上川ふるさと総合公園を選定したところである。</p> <p>なお、将来的には、県内一円にフルーツを楽しめる場所としての「フルーツ・ステーション」を創出していきたいと考えていることから、市町村で活用できそうな場所、或いは資源があれば、県としてもしっかりとバックアップを行い、「フルーツ・ステーション」の創出に向けて、連携して取り組んでいきたい。</p> <p>令和5年度当初予算には、「フルーツ・ステーション」に関連して約3,000万円を計上しているが、全て調査・検討に係るものである。</p>
梶原副委員長	<p>米の共同乾燥調製施設等の老朽化への対応が喫緊の課題であるが、その対応についてどのように考えているのか。</p>
県産米ブランド推進課長	<p>カントリーエレベーター等の老朽化に伴う修繕・改修の必要性については、今年度もJAの組合長との意見交換会などで話を聞き、課題について認識している。生産流通コストの低減を図り、安定的な生産を継続していく上で、保管施設及び調整施設は非常に重要なもので、規模も大きいことから、国の補助事業を積極的に活用しており、令和5年度当初予算に、市町村への要望調査の結果を踏まえた活用見込み分を計上している。</p>
森谷委員	<p>野生イノシシによる農作物被害が昨年は豚熱の影響で少なかったが、今年はまた増加しているとの声を聞いている。被害防止に向けた取組みはどうか。</p>
みどり自然課長	<p>鳥獣被害対策に係る県の予算としては、有害鳥獣被害防止対策推進事業費として令和5年度当初予算に2億2,691万5,000円計上しており、主に、ハード面としては侵入防止柵の整備、ソフト面としては見回り経費や捕獲活動に係る経費に対して支援するものである。また、イノシシやシカなど市町村を跨ぐものの捕獲については都道府県が一定の役割を担うべきとの考えのもと、来年度の新規事業</p>

発 言 者	発 言 要 旨
	<p>として要望のあった置賜地域にて、県が広域的にイノシシの捕獲活動を行う予定としている。</p>
森谷委員	<p>捕獲したイノシシの埋設場所には限りがあることから、共同処分場の整備に係る市町村との調整状況はどうか。</p>
みどり自然課長	<p>イノシシの捕獲個体については、廃棄物処理法上、一般廃棄物となることから、基本的には市町村の対応となり、市町村中心に処分方法について検討してもらうこととなる。なお、置賜地域では広域的な処分ができないかといった検討が進められていると聞いており、県としても、様々な情報を提供しながら、円滑に進むように指導していきたいと考えている。</p>
船山委員	<p>野生イノシシの増加に伴い、管理計画の見直しが必要と考えるがどうか。</p>
みどり自然課長	<p>現行の管理計画は令和3年4月1日から8年3月31日までの5年間計画となっており、野生イノシシの生息頭数の増加を踏まえた上での計画であることから、現行計画をもとに対策を進めていきたい。</p>
森谷委員	<p>実行計画に係るこれまでの議論の経過を踏まえた農林水産部長の考えはどうか。</p>
農林水産部長	<p>本県のフルーツは魅力的なものばかりであることから、これらを情報発信していく重要性については議会とも共有しながら、具体的な手法について検討を進めてきたところである。</p> <p>さくらんぼシーズンから初冬頃まで切れ目無くフルーツがある本県の魅力を発信していくためには、全県的に「フルーツ・ステーション」といった情報発信拠点を整備する形が必要と考え、本計画を練り上げた。</p> <p>この理想を実現させるには、県が率先して先導的な「フルーツ・ステーション」を創り上げ、また、各地域の既存の施設を活用して、市町村やJAからのアイデアに対して応援していくことが一番の近道と考えている。</p> <p>なお、先導的な「フルーツ・ステーション」の整備に当たっては、都市公園で活用できるPark-PFIという官民連携制度を活用したいと考え、来年度予算には官民連携導入調査に要する費用を計上している。この費用の半分には国の補助金を充当できる。最上川ふるさと総合公園については、我々はポテンシャルが高いと思っているが、調査の結果、民間事業者からどのように評価されるかは分からないところがあることから、新しい公共事業の進め方として、民間事業者と対話をしながら事業を作り上げていきたい。</p> <p>実行計画の実現に向けて、最大限の努力を行うとともに、進捗については随時議会に報告しながら、本県のフルーツの魅力を最大限活用し、農林水産業に関わる県民の方々の幸福度が増すよう、来年度から事業を進めていきたい。</p>
森谷委員	<p>情報発信の必要性については十分理解している。一方で、先導的な「フルーツ・ステーション」と既存施設との差別化や各地域における「フルーツ・ステーション」の具体的なイメージが分かりづらい。</p> <p>今までの議論による課題を踏まえた上で、調査・検討に当たってもらいたい。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
船山委員	<p>寒河江市におけるふるさと納税の事案があった最中で、寒河江市内に先導的な「フルーツ・ステーション」を整備することについて、どのように考えているのか。また、最上川の蛇行点にあたるが水害の恐れはないのか。</p>
農林水産部長	<p>「やまがた紅王」の本格デビュー前にこのような事案があったことは大変遺憾であるが、この事案によるマイナスイメージを払拭するため、また、「やまがた紅王」のプロモーションを一過性に終わらせないよう、フルーツ・ツーリズムの推進に向けて、まずは実行計画のとおり先導的な「フルーツ・ステーション」の整備を検討していきたい。</p> <p>水害の恐れについては、県土整備部所管であるが、土手の高いところにある公園であることから、確定的なことは言えないが、危険が非常に大きいところではないと考えている。</p>
木村委員	<p>先導的な「フルーツ・ステーション」の整備に当たっては、整備や運営も民間事業者が行うこととなるため、民間事業者同士の競争が発生することは仕方がないことでもある。</p> <p>調査・検討に当たっては、民間事業者と密に対話を図り、進捗状況についてしっかりと議会に報告してほしい。</p>
梶原副委員長	<p>先導的な「フルーツ・ステーション」については、既存施設との差別化をしっかりとしてほしい。</p> <p>各地域における「フルーツ・ステーション」は新たな施設を整備することを考えているのか。</p>
農政企画課長	<p>どのようなものとするかについて県から指定することはなく、各地域のニーズに適したものを各地域で検討してもらいたいと考えている。</p>
森谷委員	<p>先導的な「フルーツ・ステーション」にはさくらんぼの樹木を植栽するのか。また、植栽する場合、その管理は誰が行うのか。</p>
農政企画課長	<p>現時点では未定である。樹木を植えるかどうかについては、これから民間事業者と対話をし、その中でアイデアとして出てくる可能性はある。仮に植栽した場合において、管理は民間事業者又は公園管理者が行うものと考えている。</p>
梶原副委員長	<p>「フルーツ・ステーション」の創出とそのネットワーク化に向けた調査・検討に対し、①先導的な「フルーツ・ステーション」の調査・検討に当たっては、既存施設との差別化を明確にした上で、各施設に対して相乗効果が発揮されるものとする、②ネットワーク化に向けて、市町村や生産者等と意見交換する場を設け、調査・検討を進めること、③調査・検討の進捗状況について、随時、議会に報告することの3点を附帯意見とすることを提案する。</p> <p>⇒全員異議なく決定</p>